

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|
| 名 前 | | 清水 一成 | 所 属 | | 大学院 法務研究科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.25 | 法科大学院1年次の「刑法Ⅰ・Ⅱ」では、表面的な知識ではなく今後の刑事法学習の基盤となるしっかりした理論的知見を修得させたい。2年次の「刑法演習Ⅰ・Ⅱ」では事例問題の検討・討論を通じて、自ら問題を発見し解決する力とともに文章力を養わせたい。学部で開講する「アドバンス刑法」では、法曹を目指す意欲がある学生に刑法の面白さを伝えて、法科大学院進学への助けとなる授業を行いたい。法科大学院の学生に対して学習指導を行うことは当然であるが、授業で知り合った学部学生にも進学等についてアドバイスを与えたい。 | | 0.20 | 授業評価アンケートではいずれの科目も一定の評価を得た。授業時間の使い方や小テストのあり方にはなお問題がありそうだと認識し、その改善に努めるようにした。また、「アドバンス刑法」では昨年と同様に徹底して対話形式を取り入れたところ、学生にも好評であり、また教育効果も上がっているように思われた。現在のLSの「刑法」は教えるべき内容と時間との関係で直ちに対話中心にはできないが、「演習」では意識的に対話を重視した。 |
| 研究 | 0.15 | 刑法解釈学的な問題(とくに財産犯)を含んだ近時の重要判例を整理し、そのいくつかをピックアップして論評を試みる。さらに、過年度に収集した沖縄県の飲酒運転のデータをもとに、対策論などを研究してみたい。その結果がまとまれば論稿として発表したい。 | | 0.10 | 研究のために割く時間があまり確保できなかったのが残念である。飲酒運転に関しては資料を収集することはできている。ただ、その分析のためにはあまり時間が取れず、進捗状況は計画よりかなり遅れてしまっている。 |
| 社会貢献 | 0.10 | 独立行政法人国立病院機構琉球病院医療観察法病棟の外部評価会議委員として医療観察法による同病棟の運営が適切かどうかを検討する。那覇地方裁判所委員として裁判所の抱える諸問題の解決に貢献する。 | | 0.10 | 琉球病院医療観察法病棟外部評価会議は6月と11月に2回開催され、出席して適宜意見を述べた。地裁委員会は7月と11月に開催されたが、都合により7月のみ出席して意見を述べた。ほぼ、職責を果たしたと言える。 |
| 管理運営 | 0.50 | 法務研究科長として、研究科内の各専門委員会を統率し、沖縄県唯一の法科大学院が将来にわたって存続できるための安定した基盤作りを行う。司法試験合格者を安定的に輩出するには学生の質の向上が欠かせず、そのためには本研究科への進学希望者を増やす必要がある。一貫教育を目指した学部との連携、社会人の掘り起こしに向けた夜間開講は必須であるが、県内民間企業・自治体との協力体制の構築により修了生の進路保障を向上させたり、就学中の学生への様々なケアを改善したりして、進学への不安を取り除くことも重要である。これらを実現し、本法科大学院の特徴として県内外にアピールしたい。また、役職上、重要な全学の委員会委員となるので、職責を全うして琉球大学の発展に寄与したい。 | | 0.60 | 法務研究科長としての職責は、想定以上に果たせたと考えている。司法試験合格者は6名で合格率も向上した。入学予定者も10名以上をキープできる見通しである。また、加算プログラムの基礎額は第2類型A(80%)と過去最高であった。懸案の奨学金返還基金の創設が実現できず加算額が10%に留まったことが悔やまれるが、今後、努力したい。学部との連携や夜間授業の導入は順調に進んでいる。また、さらなる飛躍を目指し、県内企業との交流やアジアで活躍できる法曹の養成に向けた各種プロジェクトも動き出した。全学委員としては、とくに懲戒委員会委員として2年越しの案件に一応の決着をつけることができた。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 高良 鉄美 | 所 属 | 大学院 法務研究科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ研修プログラムにおいて学生の法曹になるための心構えを、現地のロースクール生と活発に意見交換ができるように指導していきたい。 ・担当年度の指導学生をこれまで以上に意見交換や情報交換を行っていききたい。 ・グローバル教育の視点を中心に、学生に地域問題と国際的問題を意識した教育を行っていききたい。 | | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ研修プログラムにおいて現地のロースクール生と活発に意見交換があまりできなかったが、現地の教員とはある程度できたと思う。 ・担当年度の指導学生はもちろんのこと、休学中の学生とも意見交換や情報交換ができた。 ・グローバル教育の視点を中心に、学生に地域問題と国際的問題を意識した教育を行っていききたい。 | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文を年2回書き上げ、加えて1冊の著書の下書き上げていきたい。 ・東アジア・沖縄(琉球)共同体学会の共同代表として立ち上げ以来頑張ったことを今年も継続して行いたい。同学会での報告を引き続き年1回は行いたい。 ・九州法学会理事の役を引き続き対応していきたい。また、新しく就任する日中公法学会理事の役もきちんとこなせるよう頑張りたい。 | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・2個の研究論文を2冊の本に執筆担当者として書き上げた。 ・東アジア・沖縄(琉球)共同体学会の共同代表として継続して、年8回ほどのペースで開催した。同学会での報告は巻頭言の執筆にとどまった。 ・九州法学会理事の役を会議出席等対応した。また、新しく就任する日中公法学会理事として、6月の鄭州大学での学会報告とあいさつを行った。 | |
| 社会 貢献 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県新県史編集委員として、また同県史の現代部会長の役割をしっかりと発揮したい。 ・沖縄県憲法普及協議会会長として、本年度も憲法講演会をはじめ社会的活動を行っていききたい。 ・沖縄弁護士会の資格審査委員としての仕事に対応しなければならない場合には、しっかりとやり遂げたい。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県新県史編集委員として、また同県史の現代部会長の役割をしっかりと発揮したい。 ・本年度は現代部会を4回開催するなど活発に活動した。 ・沖縄県憲法普及協議会会長として、本年度も憲法講演会をはじめ社会的活動を行った。 ・沖縄弁護士会の資格審査委員会は開催されなかった。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・教務・学生委員会の委員として、カリキュラムや学生の身分関連問題の審議、各種学生の勉学のためになる講演会等の企画を含め、頑張りたい。 ・渉外委員会委員として、国際交流はもちろんのこと県内の自治体との協力関係の形成についても、積極的に取り組んでいきたい。 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・教務・学生委員会の委員として、カリキュラムや学生の身分関連問題の審議などを重ねてカリキュラム改正案などを作成した。 ・渉外委員会委員として、国際交流についてはハワイ研修をはじめ、積極的に取り組んだ。県内自治体への取り組みが足りなかった。 | |
| 計 | 0.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 比嘉 正 | 所 属 | 大学院 法務研究科 | | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|-----|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 今年度は、前期にLSの講義(基礎法学入門、民事法基礎演習、クリニック)の他に、大学院人文社会科の講義(民法特論2)および学部の講義(家族法)を担当する予定である。また、後期にLSの講義(民法演習Ⅱ、家族法、エクスターンシップ)の他に、大学院人文社会科の講義を担当する予定である。今年度は、学生に講義内容をしっかりと理解させるために、工夫していきたい。 | | 0.30 | 今年度は、前期にLSの講義(基礎法学入門、民事法基礎演習、クリニック)と大学院人文社会科の講義(民法特論Ⅰ)および学部の講義(家族法)を担当し、後期にLSの講義(民法演習Ⅱ、家族法、エクスターンシップ)を担当した。今年度は、学生に講義内容を理解させるためにレジュメや資料の充実の他に、双方向の授業の更なる充実を試みたが、その試みは概ね良好であると評価された反面、民法演習Ⅱではもっと実務に関係する議論をして欲しいとの注文も受けた。 | | |
| 研究 | 0.40 | 今年度は、琉大法学に論文を単著で発表する予定である。 | | 0.40 | 今年度は法学論集(九州国際大学)23巻1・2・3合併号に論文を単著で発表した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 今年度は、那覇市公平委員会委員として、那覇市役所内で生起する問題の対応に当たる予定である。 | | 0.10 | 今年度は、那覇市公平委員会委員として、那覇市役所で生起した問題の対応に当たった。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | 今年度は、全学の二つの委員会の委員として会議や相談処理に当たる予定である。また、LSにおいては、副研究科長として研究科長を補佐する傍ら、修学支援委員会委員長として学生の修学支援に当たる予定である。 | | 0.20 | 今年度は、全学の二つの委員会の委員として会議に出席した。また、LSにおいては、副研究科長として研究科長を補佐し、修学支援委員会委員長として、学生の修学支援に当たった。 | | |
| | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 藤田 広美 | 所 属 | 大学院 法務研究科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | 入学者の質的低下が激しい状況にあるため、それでもなお法曹養成を可能にする学修環境の研究、教育スキルの開発に努め、従前の担当科目の抜本的な見直しを図る。特に、前期担当の「民事訴訟実務の基礎」と「民事訴訟法Ⅱ」は、改善対象として捉えることとする。 | | 0.35 | 左記にある「民事訴訟実務の基礎」「民事訴訟法Ⅱ」の改善を実施した。学生の負担を軽減しながら、メリハリのあるプログラムになったものと考えている。 | |
| 研究 | 0.25 | 従前、公刊した教科書について、改訂時期を迎えていることから、改訂準備作業に着手すべく、民事訴訟法の研究に重点をおいた研究活動を行う。 | | 0.20 | 民訴法の研究そのものは継続しているけれども公刊する機会が与えられなかったので外部発表はしていない。労働法実務に関しては、労働局と労働委員会との関係性について中央労働時報に発表する機会を得た。 | |
| 社会貢献 | 0.35 | 那覇地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員、沖縄県労働委員会会長公益委員、沖縄弁護士会研修特別委員会・司法修習委員会・司法法制委員会委員として、対外的活動を積極的に行い、本学教員のプレゼンスを示していきたい。 | | 0.45 | 左記委員活動はきわめて積極的に実行することができた。例えば、新人弁護士研修の企画立案を行ったほか、沖縄県経営者協会で県内の主力企業の経営者に対して講演を実施するなど想定を超える活動ができたものと考えている。 | |
| 管理運営 | 0.05 | 入試関連業務として、法曹志望者を対象とした講演会を企画し、本学の認知度を向上させ、入学希望者の拡大に努める。 | | 0.00 | 左記講演会等の企画は実現しなかった。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 武田 昌則 | 所 属 | 大学院 法務研究科 | 職 名 | 教授 |
|-------------|---------------------|---|-----|---------------------|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 授業においては、民事法総合演習IIの会社法分野において、教育方法の改善を含めた施策を実施する。学生支援については、弁護士就職難の状況下で、合格者・不合格者を問わず、その進路を出来るだけ把握できるようなチャンネルを確保し、可能な限り新たな就職先を開拓する。この点については、法曹倫理の授業で弁護士の実態に立ち入った題材を扱う等して、学生のモチベーションを維持できるように工夫する。 | | 0.40 | 民事法総合演習IIの会社法分野では、内祐助教授及びAAの今福弁護士と連携し、司法試験の過去問を学問的に研究するアプローチをとった。学生支援については、修了対象者に対し、県内大手建設会社の法務部門への就職紹介を行った。法曹倫理の授業でも、弁護士の増加を悲観的にのみとらえるのではなく、ビジネスチャンスとしてとらえる教材を用いた。 | |
| 研究 | 0.10 | 近々改正が予定されている相続法分野での研究成果を発表するとともに、子の奪取に関するハーグ条約に関する実務上の経験を踏まえた考察を発表する。 | | 0.10 | 本年度3月末締切予定の琉大法学に、会社法についての論考を投稿すべく準備中である。子の奪取に関するハーグ条約については、大分県弁護士会で開催された外務省セミナーでの講師をつとめたほか、沖縄県から米国に奪取された子の返還に成功した事例について、日弁連ハーグ条約WGで発表を行った。 | |
| 社会貢献 | 0.25 | 臨床法学教育科目(クリニック)において、離島法律相談またはLGBTに関する法律相談会を実施する。子の奪取に関するハーグ条約の実務に携わりその成果を発信するとともに、沖縄県選挙管理委員会として、県民の政治意識及び投票率の向上に向けた活動に貢献する。 | | 0.20 | クリニックは受講生がおらず開講できなかったが、LGBTに関する法律相談会を矢野教授の担当するジェンダーと法の授業で実施することができた。沖縄県選挙管理委員会では委員長職務代理として投票率の向上に努め、沖縄県土地開発審査会では委員長を務めた。 | |
| 管理運営 | 0.25 | 渉外・キャリア委員会委員長として、法科大学院の国内外の諸機関との連携の強化に貢献し、学生の就職支援に役立つような環境を整備する。 | | 0.30 | ハワイプログラムの実施について継続的にその立案交渉にかかわったほか、渉外・キャリア委員会委員長として、沖縄銀行・琉球銀行・おきなわサービサー等の県内企業との連携強化に貢献し学生の就職支援に役立つ環境を整備に尽力し、昭和薬科高校との交流を準備し、将来の学生を集める活動にも尽力した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 井上 禎男 | 所 属 | | 大学院 法務研究科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 平成29年度は着任2年度目にあたる。初年度の反省点をいかし、引き続き担当科目への取組みと効果的な教育法の模索を最優先に考える。授業評価・FD等の結果をフィードバックしながら、組織全体の中での自身の取組みを自覚して、適宜、改善に向けた努力を継続的に行う。 | | | 0.30 | 前期および後期ともに、授業評価・FD等で示された学生からの要望や結果を真摯に受け止めることからはじめた。授業の進め方・教材準備についての一層の工夫と個人のスキルアップを図るべく、努力を続けた。昨年度からは改善が図られていることは実感できたが、まだまだだと思うので、今年度の反省点を活かし来年度の担当科目のブラッシュアップを行うことを再確認・自覚している。目標は達成できたと考える。 | | |
| 研究 | 0.25 | 10月開催の日本公法学会での個人報告とそのための準備を最優先に考えて、29年度の研究に従事する。また、すでに依頼を受けている分も含めて、引き続き、積極的に論文等の業績公表につとめる。今後の外部資金獲得のための前提となることも考慮して、できる限り意欲的に継続する予定である。 | | | 0.25 | 10月の公法学会報告を順当に終えた(加えて、9月の研究会でのプレ報告も行った)。報告の成果は来年度の学会誌上で公表される。なお、外部資金の申請は見送った。公法学会報告後の11月には別途、地区防災計画学会ほか主催の公開シンポジウムのコメントーターを務めた。地区防災計画学会については、今年3月開催の大会でのセッション司会者も務める。成果物としては、昨年4月に共著の教科書(2章分を分担)が刊行され、8月には商業誌上で単著論文を公表した。11月には判例百選第7版掲載の判例評釈(再考分)を、また昨年3、4、6月にそれぞれ刊行された商業誌上でも判例評釈を公表した。さらに本年1月には、前記コメントーター業務を踏まえた論考を学会誌上で公表している。目標は達成できたと考える。 | | |
| 社会貢献 | 0.15 | すでに就任しているあるいは現時点で就任予定の審査会、審査会等の外部委員については、これまで同様に真摯に取り組む所存である。地域に固有の問題についても、これまで同様、求めに応じてマスコミ等と情報交換しながら問題状況の把握に努め、機会があれば有識者の立場で必要に応じた発信をメディアで行う予定である。 | | | 0.15 | 学外での委員としては、継続している那覇地裁(簡易裁判所判事推薦)、沖縄県(情報公開審査・会長職)の2つに加えて、新たに沖縄県(行政不服審査・部会長職)、西原市(情報公開個人情報保護制度運営審議・副会長職)、沖縄市(指定管理者選定)、豊見城市(情報公開個人情報保護審査)の4つの自治体からの委員委嘱を受け、計6つの業務に従事した(沖縄市は事実上今年度で終了見込み)。また、行政法上の諸問題に関するマスコミからの取材・コメント依頼に応じ、昨年3月にテレビ取材1件、地元新聞2紙については3月に3件、5月に2件、7月と9月に各1件の計7件の記名コメント・評論を寄せた。目標は達成できたと考える。 | | |
| 管理運営 | 0.20 | 所属部局内での委員会等の委員業務、また全学での委員等の業務については、精確な役割ないし所掌理解のもと、引き続き責任をもって積極的に遂行していく。 | | | 0.30 | 部局では4月に新体制に移行して以降、FD委員会(委員長)として所定の業務に従事している。指導教員としての対応にも引き続きあたっている。加えて、来年度の認証評価に向けたWGの責任者としての業務にも従事している。全学では、全学情報システム技術専門委員会技術責任者兼技術担当者、公益通報に関する調査チーム委員(チームリーダー職)については、今年度はいまのところ業務の実績がない。他方で、今年度から新たに、教員懲戒委員会委員、懲戒調査委員会委員(調査委員長)に就いており、継続して職務遂行にあたっている。目標は達成できたと考える。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 宮尾 徹 | 所 属 | 大学院 法務研究科 | 職 名 | 准教授 |
|-------------|---------------------|--|-----|---------------------|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | 今年度から担当科目が一部変更されるため、これまで以上に、各年次における到達目標を意識し、かつ、科目間の連携に配慮しながら教育に当たりたい。特に、3年次の教育レベルを維持することを前提に、2年次における教育を適切なレベルに設定するとともに、授業前の予習や開講されていない期間における自習の指示を適切に行うようにしたい。 | | 0.40 | 新しい刑事訴訟法担当教員と良好な意思疎通が図れたため、科目間連携は極めてうまくいったと思われる。また、従来検察官が担当していた実務基礎科目を応急措置的に担当したが、学生に理論と実務とのリンクを意識させるような授業進行ができたと思われる。来年度以降、派遣検察官が担当する場合に、うまく引き継ぐようにしたい。 年次ごとの教育目標の設定と実施についても概ね良好にできたと思われる。 | |
| 研究 | 0.10 | 新しい強制処分の規制の在り方、要証事実の考え方、裁判員裁判における評議のあり方、公判前整理のあり方について調査研究を続行したい。 また、学内外の研究者との共同研究として、性の多様性の問題についての研究(科研)を行う予定であり、分担者として貢献したい。 | | 0.10 | 主たる研究分野については、論文執筆に向けた準備作業はある程度進んだ。また、性の多様性の問題についての研究は、共同研究者との意見交換等を通じて、順調に進んでいる。 | |
| 社会貢献 | 0.10 | 弁護士会の委員会活動、紛争調整委員、厚生局嘱託専門員、その他の学外での活動につき職責を果たしたい。また、司法精神医学懇話会にも積極的に出席するようにしたい。 | | 0.10 | 学外の活動については、積極的に参加し、職責を果たせたと思われる。 | |
| 管理運営 | 0.40 | 研究科内の所属する委員会活動に積極的に関わるとともに、法務担当の学長補佐として、ハラスメント防止対策委員会活動や、規則整備に関する委員会活動等の全学的な課題に関する活動にも、積極的にかかわっていきたい。 | | 0.40 | ハラスメントを含め、学内の問題についてこれよりも関わる機会が増えた。対応に時間をとられる問題が多かったが、適切に対応できたと思われる。規則整備の関係は、細部まで詰めることができていない分野が残ってしまったが、組織規則・学則の改正までは辿り着いた。全学的な課題について意識する機会が増えたことから、これまでよりも広い視野をもって対応できるようにしていきたい。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 三明 翔 | 所 属 | 法務研究科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 「刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」ではレジュメを毎回用意し、また図表を用いた解説を行うことで、学生の理解の向上を図る。また法的思考力を高めるため、事実関係を変更した場合の処理などを学生に問うことを意識して行う。「法律基礎英語」では、学生の英語で会話することに対する抵抗感を減らすため、積極的に英語で問いかけを行う。また法に関わる英文の読解には、英語の知識のみならず、英米法の知識も不可欠であることから、関連事項についても丁寧にわかりやすい解説を心がける。 | | 0.60 | 左記の年度目標は概ね達成できたと考えている。加えて、「刑事訴訟法ⅠⅡ」「法律基礎英語ⅠⅡ」のいずれにおいても、学生のより深い理解を促すためにパワーポイントも使用して講義を行い、学生の反応も良かった。また授業時間外でも学生の質問を多く受け付けた。他方で、「刑事訴訟法Ⅱ」ではシラバスで予定したよりも実際の授業の進度が遅く、後半でかけ足での解説となってしまったことが反省点として残った。 | |
| 研究 | 0.30 | 研究分担者として参加している科研の企画が内定される見通しであることから、他の分担者と協議し、担当する刑事法領域での研究内容について検討・調査を進める。その他、研究論文1本、国内判例の評釈1本、外国判例の評釈1本を目標に研究を進めたい。 | | 0.10 | 科研の分担担当者とは複数回研究の打ち合わせを行った。研究業績については、新法の解説1本、外国判例の評釈2本の執筆を行った。正式な研究論文は完成させることが叶わなかったため、次年度の課題としたい。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 特に委員等の予定はないが、時宜に応じて社会に貢献できる活動を実践したい。前任校では、高校等への出張講義などの経験があるので、そうした経験を活かした活動ができればよいと考える。 | | 0.00 | 本年度は社会貢献を行う機会がなかったため、次年度の課題としたい。 | |
| 管理 運営 | 0.20 | 渉外・キャリア支援委員会委員及び入試・広報委員会委員(広報班)を担当する。琉球大学法科大学院の他の法科大学院に比べたときの良さ・強みを自分自身で正確に理解することに加え、それを受け手に届く形での広報の方法を検討し、提案・実践したい。 | | 0.30 | 入試・広報委員会(広報班)の活動を活発に行った。法科大学院パンフレットの作成、説明会の開催、関連グッズの作成・頒布、ピンクドット沖縄への出店、フェイスブックページの開設等を行い、他の委員との打ち合わせも頻繁に行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 吉田 英男 | 所 属 | 法務研究科 | 職 名 | 講師 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.60 | 赴任初年度なので、今期の第一の目標は、担当科目についての教員としての職責を全うすることです。とりわけ、学生との対話の重要性に留意し、学生が気兼ねなく発言・質問できるような雰囲気づくりを目指したいと思います。また、他のベテランの先生方の授業を見学して、法科大学院の講義のあり方を勉強したいと思います。 | | 0.80 | 今年度は法科大学院の講義を初めて担当させて頂きました。良かった点は、3, 4人のベテラン教員の授業を参観させて頂き、その指導方法などを参考にして、講義の準備と進行を図った結果、大きな問題なく講義を終えることができた点です。また、学生の質問についても、口頭で足りないと考えた部分については、事後講義において説明したり、メールで詳細に解説するなどして、学生の疑問を解消できたように思われます。悪かった点は、講義の時間配分がしっかりしておらず、予定範囲を全てやれなかった点、講義準備が不十分でわかりやすい周到な説明を用意できなかった点があげられます。 | |
| 研究 | 0.30 | 今期の第二目標は、大学紀要に論文を2本掲載することです。 | | 0.15 | 今年度は1本を発表できました。 | |
| 社会貢献 | 0.00 | 赴任初年度なので、特に活動を予定してはいませんが、来年度以降をみずえて、自分にどのような社会貢献が可能なのかを模索していきたいと思っています。 | | 0.00 | 特に言うことはありません。 | |
| 管理運営 | 0.10 | FD委員として従事する予定です。 | | 0.05 | FDの仕事については、補助的な仕事が多かったように思いますが、来年度はより積極的に活動していきたいと思っています。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |